

特別支援教育だより

第7号



令和5年12月18

長崎市立深堀小学校

特別支援教育部

学習障害(LD)

学習障害(LD)とは、中枢神経に何らかの機能障害があるために、知的能力の遅れはないのに、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難があることです。ADHDや自閉スペクトラム症などと合併することが多くあります。(診断は、医療機関でしかできません。)

学習障害の症状は十人十色で、学習困難が一部分にしか現れないため、周囲からは、ただ「怠けてるだけ(努力不足)」「苦手なだけ」と思われがちです。

LDのタイプは、主に「読字障害」「書字障害」「算数障害」の3つに分かれます。

【読字障害】

- ・ひらがなの音読が遅く、読み間違える。
- ・黒板の字は写せるのに、読めなかったり、意味がわからなかったりする。
- ・文章を読むのがたどたどしい。

【書字障害】

- ・バランスのとれた文字を書くことが難しい。
- ・板書など書き写しの速度が極端に遅い。
- ・考えた内容を書いて表現することが難しい。

【算数障害】

- ・「1,2,3,4…」の規則性などがなかなか身につかない。
- ・計算が苦手。(計算方法を理解するのが難しい。)
- ・文章題を解くのが難しい。

(ここで言う「苦手」「難しい」とは、年齢が2歳ほど下の子どもと同じくらいの状態で、同年齢の子どもと一緒に行動するのに困難を伴う状態をいいます。)

学習が困難な部分を、同年齢の子どもと同じようにさせようとしても、勉強嫌いになったり、自信喪失になったりしてしまいます。

まずは、困難を抱えていることを理解し、その不得意な部分を見つけ、その子に合ったサポートをする必要があります。困難な部分は少しずつ、丁寧に学習させましょう。また、代替え手段としてのパソコンやタブレットを用いて、通常の学習に取り組みせると困難さを感じずに、得意な分野の学習を進めることができます。